

# 藤原ナチュラルヒストリー振興財団設立 40 周年記念行事実施報告書

活動実施団体名 NPO法人徳之島虹の会

責任者・報告書作成者名 寛山一郎

1.活動の名称：私たちの島、世界自然遺産となった徳之島で秋を探そう見つけよう  
「みんなで探る自然史シリーズー自然とともに歩むー」

2.実施日：令和3年10月12日(火) 9:30～11:00

3.実施場所：鹿児島県大島郡伊仙町義名山周辺（カムイヤキの森遊歩道脇の農道）

4.プログラム：昨年度も同様に小学1年生を対象として実施した「秋探し」。学校から車で10分程度の場所に、秋を感じさせてくれる様々な自然があります。その最たるものはドングリですが、それ以外にも小さな生き物や植物は、姿を変えたり見せたりしてくれます。そんな小さな季節の変化を体感して、貴重な自然とのふれあう時間を大切にする心を養います。

（タイムテーブル）

9:30 カムイヤキの森遊歩道出口駐車場集合

9:30～9:45 オリエンテーション

■講師、スタッフ紹介と散策にあたっての注意事項

9:45～10:45 林道散策

■班分けして講師及びスタッフが児童をサポート

10:45～10:55 閉会の挨拶

■子どもたちの感想、挨拶：講師、引率者

11:00 現地にて解散



5.対象・参加人数：伊仙町立伊仙小学校1年生、24名、引率教員2名、計26名  
他講師1名、スタッフ5名（以上徳之島虹の会）

↑  
<お礼の感想文集>

6.活動の内容・状況・感想

★天候が乱れていたこともあり、開始時間を20分程度早めて実施。オリエンテーションでは特にハブの怖さについて講師やスタッフから説明。その後、徳之島の秋を代表するサキシマフヨウの花を見せながら、花びらは食用にもなることを実際スタッフが食べてみせる。にわか雨が降っていたため、バスの中で待機（オリエンテーション）したり、ツワブキやクワズイモの葉っぱを傘に見立てたりしながら楽しく散策。ドングリはシイの実が比較的多く落ちていたが、一部ではカシ（アマミアラカシ）の実もあって、「いろんな色があるね。」と自然の移り変わりを感じたり、セミの抜け殻を集めたり。拾い集めた“秋”は、その後図工の時間でも活用する予定です。（総評）

- ・参加児童の多くは話をしっかり聞いて、ドングリや果実を自分で探していた。（スタッフ）
- ・時間があつたら、もっと多くの生き物などを楽しんでもらえたはず。次を企画したい。（講師）
- ・講師やガイドさんのお話は、私も初めて聞くものばかりで、充実した時間でした。（引率の先生）

7.写真



雨が降っていたので、最初の説明はバスの中で。



さあ、これから散策へ出発です！



さて、今見つけたこれは何でしょうか？



この木の下に、たくさんドングリが落ちるよ。



あと少しで折り返し地点。頑張れー！



→マダラコオロギ

雨の中でも見つけた！



セミの抜け殻→